

## 令和5年度 市川中学校 学校・家庭・地域連携推進協議会

7月14日（金）、令和5年度市川中学校 学校・家庭・地域連絡推進協議会の総会・専門部会が開催されました。

総会では今年度の活動方針等が話し合われたあと、生徒会役員が、①「地域の防災訓練に参加するにあたり、地域のために自分たちのできることを・地域に期待すること」、②「自分たちの住む市川三郷町の10年後に何を求めるか、そのために自分たちのできることは何か」について、生徒アンケートをまとめたものを発表し、参加者と意見交換を行いました。

### ①「地域の防災訓練に参加するにあたり、地域のために自分たちのできることを・地域に期待すること」

- ・若い人の関心が薄れているので、学校でも防災について考える機会をつくっていくことや、手軽に取り組める活動を考える。
- 市川中学校も青少年赤十字活動（JRC）に加盟しているので、防災についての学習を実施してもらうことができる。検討してみたらどうか。
- ・今までは自主防災活動は大人だけで行ってきたが、今年度初めて中学生が参加することで、どういう訓練をしていけば良いのか考えるきっかけとなれば良いのではないかな。
- ・行ってみる → どうすれば良いのかを考える → 次に進む工夫をする → 地域ごとに活動を考える → 消火訓練を手伝う・一人暮らしの高齢者を訪問するなど。
- ・中学生が学校で被災する確率は1/4 → 学校で被災したときには守られる立場になる。家庭で被災した場合は守る立場になる。その確立の方が高い。
- ・積極的に素早く行動しなければならない。
- ・家庭で何ができるか、確認しあっておく必要がある。
- ・避難所がどこにあるのか、どこに逃げれば良いのか知っておくことが大切。
- ・災害によって避難の仕方、避難場所が変わることも確認する必要がある。
- ・中学生の果たす役割は大きいので、具体的にどう行動するのか、家庭でも地域でも一緒に話し合っておくことが大切。



②「自分たちの住む市川三郷町の10年後に何を求めるか、そのために自分たちのできることは何か」

- ・自分たちが、市川三郷町に誇りをもち、愛着をもってほしい。
- ・住みやすい町にする → ゴミを減らす → ゴミ拾いだけでなく、ポイ捨てをしないように町の中にゴミ箱を置いたらどうか。
- ・安全な町づくり → 街灯が少ない。カーブミラーやガードレールがない。危険箇所がある。  
→ 危険な物に目を向ける。気づいたことは学校や町に報告し、安全で豊かな町づくりにつなげてもらう。
- ・スポーツ団体などへの若い人たちの参加を促す。学校でも外部指導者を派遣し、部活動の指導をするようにしていく。
- ・市川三郷町に住んでいても、知らないことやわからないことがたくさんある。学校での町内めぐりや地域学習はとてもためになる。  
→ 中学1年生が町内めぐりで地域の事業所を訪れて、話を聞いたり体験する機会を設けた。市川三郷町の伝統を守りながら、新しいものを開発していて興味深い話が聞けたり体験することができた。今後の取り組みへをつながっている。  
→ SNSなどで、活動を発信してはどうか。
- ・生徒が地域の人たちと意見交換をする場をもっと増やしたい。(学家地連で行われるこのような話し合いが、地域で行われると良いと思う。)

## 広報研修部

地域学校協働本部やコミュニティースクールの活動につながるように、外部との連携を強化する。

### 広報活動

#### ・町広報との連携

学家地連の活動を町の広報でお知らせする。総会、ほうとう作り、花植活動取材してもらう。

#### ・報道機関との連携

地域と連携した活動を報道機関に伝え、広く知ってもらうようにする。

#### ・地域の活動を中学生に知らせる。



## 環境整備部

公共施設等への花植え作業をとおして、地域の環境美化活動を進めるとともに、中学生と地域の方々との交流を深める。

### 環境整備活動（花植え作業）

- ・日時： 11月11日（土）午前9時より実施
- ・場所： 市川三郷病院玄関前・ケアセンターいちかわ東側花壇・ミニデイサービス花壇  
下地区公民館（4ヶ所）
- ・参加者：環境整備部員・社教事務局・シニアクラブ・中学生ボランティア



## 体験学習部

ほうとうづくりを通して、中学生と地域の人たちとのふれあいの機会を設ける。

- ・日時： 9月22日（金） 1校時～4校時 （家庭科の授業として2学年で実施）
- ・場所： 市川中学校 調理室
- ・参加者：市川中学校2学年44名・体験学習部員・地域の方10名程度（指導者として）

